



公平 良三
(キミヒラ リョウゾウ)

1938年東京都で生まれ、1967年東京工業大学大学院で電子工学専攻の工学博士を取得。1967年、当時まだ小企業にすぎなかった赤井電機株式会社の赤井三郎氏に出会い、その経営能力と人柄に惚れ込んで入社。その後、赤井三郎氏の片腕として参謀役を勤めて、一部上場企業にまで成長した赤井電機の全盛時代を築くのに活躍。

1972年、ロサンゼルスに現地法人アカイ・アメリカへ管理部門では初めての駐在員として出向。この間、VP Operation など現地法人の様々な仕事を経験するかわら、UCLA のビジネス・スクールに通い、MBA を取得。その後、本社に戻り製品企画部長・営業総括部長を勤めて退社。

1983年ロサンゼルスに、キミヒラ・アンド・テイラー・アソシエイツ・インクを設立し日米間にビジネス専門のコンサルタントとして活躍。この間、多くの日米のベンチャー企業のビジネスに拘わってきた。

2011年東工大の蔵前ベンチャー相談室の前進であるベンチャー研究会を始めた。

2006年に、老後の生活と日本でのビジネスのために、住居を25年間住み慣れたロサンゼルスからハワイに移住。

2006年に、ベンチャー企業・中小企業の営業代行を行う、ジャパン・レップ・ネットワーク合同会社を設立し、現在は日本全国・米国・中国を駆け回っている。また、博士夫人のモロッコ産アラガンオイルの製造・販売を手伝う。

日米4人の兵士の証言・日記による悲惨なサイパン島戦の真実

サイパン島陥落

現代にも残る負けるべくして負けた21の敗因とその対策の提言

2015年(平成27)11月1日 第2版発行

著者：公平良三、Douglas Westfall

発行者：堀内伸浩

Copyright © 2015 by Ryoza Kimihira & Douglas Westfall
Printed in Japan, Elm Planing
ISBN 978-4-9908513-0-9



Douglas Westfall
(ダグラス ウェストフォール)

1940年代の末にロスアンゼルス近郊のWilshire Blvd.で生まれ、10歳ころから歴史に興味を持ち、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校で「エレクトロニクスと教育」の資格をとった後に25歳で教育関係の職業についた。

15年間の学校と企業での教育経験の後、1990年に出版社を始めた。過去25年の間に95冊のアメリカの歴史に関する書籍を出版し、幾つかのドキュメンタリーフィルムの時代考証を担当した。

最近の数年間、アメリカの歴史に関連する、埋もれた資料の発掘に努めている。自分自身での出版により、本の質を高い水準に保ち、著作の幅を広げている。Douglasは、米国の歴史に関する講演を行っており、米国ににおける知られざる個人のストーリーを紹介している。その中には、米国の南北戦争・沈没した客船タイタニック号・女流航空家アメリカ・エアハートに関するものなどの実際の話がある。米国だけでなく、カナダ・南米・ヨーロッパ・フィリピンなどで、講演活動を行っている。

Douglas夫妻は、二人の孫とともに、頻りにハリウッド映画のロケの場所となるカリフォルニア州の歴史的な街Old Towne Orangeで暮らしている。近所には、本書に登場した元海兵隊員のRichard Meadowsが住んでいる。

発行所：有限会社エルム・プランニング
〒352-0016 埼玉県新座市馬場1-9-10
電話 048-480-5702
印刷・製本：株式会社プリントバック
装丁 平塚大一

本書のコピー・スキャン・デジタル化等の無断複製は著作権法で禁じられています

参考文献

- みんなで綴る野重九連隊史 岡崎輝城他 65名 2005 野重九会発行、(第4章で岡崎輝城の戦記を引用した)
- それでも、日本人は「戦争」を選んだ 加藤陽子 2009 朝日新聞社
- 1 列日サイパン島 白井文吾 2009 東京新聞出版局
- 2 日本人はなぜ戦争へと向かったのか(上・戦中編・下) NHK取材班 2011 発行所 NHK出版
- 3 「昭和天皇実録」の謎を解く 半藤一利他 2015 文春新書
- 4 橋爪大三郎・小林慶一郎「ジャパン・クライシス」 筑摩書房 2014
- 5 空気の研究 山本七平 1983 文藝春秋
- 6 総年表、無能一兵卒の軌跡 最終巻 彦坂諦 1995 柘植書房
(1941年-1946年迄の772頁に及ぶ詳細な年表、毎日の出来事の記録)

以上の参考文献で、過去・現在・今後の日本の問題を考える際、「空気」の概念が重要であるので、山本七平氏の著書の22ページを下記に引用させて頂く。

「空気」とは何であろうか。それは非常に強固でほぼ絶対的な支配力をもつ「判断の基準」であり、それに抵抗する者を異端として、「抗空気罪」で社会的に葬るほどの力をもつ超能力であることは明らかである。(中略) だが通常この基準は口にされない。それは当然であり、論理の積み重ねで説明することができないから「空気」と呼ばれているのだから。

従ってわれわれは常に、論理的判断の基準と、空気の判断の基準という、一種の二重基準(ダブルスタンダード)のもとに生きているわけである。

そしてわれわれが通常口にするのは論理的判断の基準だが、本当の決断の基本となっているのは、「空気が許さない」という空気の判断の基準である。